

今を走る

沖縄県立開邦中学校三年 大嶺 紗和

燦々と照りつける太陽を受け
心地良い風を感じながら
私は今日も走る

キラキラ輝く海のさざ波が
私の足取りを早める
道端に咲き誇るハイビスカスが
夏の訪れを物語る
四人家族の元気な笑い声が
私の背中をやさしく押す

体全体で 沖繩を感じる
ああ、なんて幸せなんだろう
四方八方から飛んでくる
いくつもの銃弾から逃げながら
人々は今日も走った

海を埋めつくす黒い壁が
人々の足取りを早めさせる
道端に転がっている数多くの死体が
死の危険を物語る
一人ぼっちの少女の泣き声が
人々の心を痛める

体全体で 変わり果てた沖繩の姿を
もういいよと思うくらい思い知らされる
ああ、なんて無力なんだろう

七十九年前
私達の住む沖繩は
一瞬にして戦場へと変わってしまった
死体で埋め尽くされた道を
何とか足場を見つけて走る
お腹を空かせた妹の為に
水や食料を求めて走る
行くあてもなく

今を走る私達が
戦場を走り抜いた人々に問い返す
何ができるだろうか？
そして
何をすべきなのか？
と

今を走る私達は
思いを受け継ぐことができる
知ろうと思う探究心を抱え
走る。走る。走る。
そうしていくうちに
いつしか
走り抜いた人々の
あの日の経験が
あの日の思いが
あの日の届くことのなかった声が
残すべき大切なものが刻まれていく
ただひたすらに走る

行き場のなくなつた人々には
走ることしかできなかつた
いつ死ぬか分からない恐怖を抱え
走る。走る。走る。
そうしていくうちに
いつしか

誇るべき海が
島を彩る花や木々が
愛する家族や友人が
私達の大切なものが失われていく

戦場も走りぬいた人々が
私達に問いかける
こんな事実が忘れ去られてもいいのか？
そして
同じ過ちを繰り返してもいいのか？
と

私達が走つた道。
そこには
たくさんの“きせき”が溢れている
私はその道を
見逃さないように
忘れないように
見つけてもらえるように
今日も走る

私達がこれから走る道
そこに
平和な未来が溢れているように
私は今を走る